

終わりのことば

特殊教育から特別支援教育になり3年がたち、昨年の3月には特別支援学校の学習指導要領が改訂されました。その中で児童・生徒の個々のニーズに基づいた指導内容・方法の充実、教員の専門性の向上、個別の指導計画・個別の教育支援計画作成の義務化など、教育を取り巻く情勢の急激な変化と、それに対応するため教員の多忙化も余儀なくされています。

そのような中で、本校が昔から大切にしてきた、目の前の子どもたちから学ぶという主旨で「一人一人のニーズを読み取り育てる取り組み」を研究テーマに掲げ、情勢の変化の対応も含め実践を進めてきました。

昨年度の小学部児童の事例から、読むこと、書くことにコンプレックスを持ち、自分の思い通りにならないと、その不満をあらわに出す例がありました。「ピタゴラ(装置づくり)をやりたい」と言う本人のニーズに基づいて教員が支援していく中、ホームページの検索や、必要な物の要求をしたり、絵なども少しずつ書いたりするようになりました。同じ児童が、今年は「エコバックに(自分の)絵をアイロンプリントして売りたい」というニーズのもと、電卓による簡単な四則計算、ポスターづくり、友だちとの協力、自分の気持ちを相手に伝える、最後まで仕事をやり遂げるなど、多方面に成長が見られました。これは子どもの「思い」や「要求」から出発して、その子がより良く生きるためのより良い教育支援の在り方を検討していった結果だと思えます。

昨年度の課題として、子どもの実態把握や評価の方法に全校としての統一性が見られなかったことや、個別の指導計画と日々の授業とのつながりの在り方の再検討があげられました。その反省を踏まえて、今年度は「目標達成のための構造図」の書式を作成し、子どもの実態把握や評価の方法に統一性を図ると共に、より子どもが主体性を発揮しつつ、自己実現に向かうために日々の授業と個別の指導計画のつながりについて整理しました。

今年度の研究は3年計画の2年目に入り各学部では実践の積み重ねが行われていますが、まだ不十分な点が多々あると思います。最終年度に向けて皆様からの忌憚のないご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、金沢大学の先生方には、昨年度より引き続き研究協力者としての的確なご指導ご助言を頂いたことを心より感謝申し上げます。

副校長 今井康弘

研究同人

研究協力者

小学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	教授	吉川	一義	氏
中学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	武居	渡	氏
高等部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	河合	隆平	氏

校長	山	岸	雅	子
副校長	今	井	康	弘
教頭	山	本		仁

小学部	山	田	富	美
	福	田	貴	子
	木	下	由	起
	山	田	哲	男
	竹	下	規	美代
	福	田	貴	子
	柳	生	美	由季
	吉	川		開
	岡	部	亜	希子
	尾	山	登	志子 (講)
	東	田	幸	江 (講)

高等部	下	野	令	子
	伊	藤	久	美子
	村	野	智	康
	三	宅	和	憲
	北	潟	理	美
	村	瀬	真	理子
	鍛	冶	口	誠
	小	足	進	午
	鶴	尾	千	亜紀 (講)
	中	谷	至	子 (講)

中学部	神	谷	みつ	江
	橋	本	直	紀
	吉	田	華	恵美
	今	川	陽	子
	田	村	吉	治
	荻	野	稔	朗
	中	村	由	美子
	新	保	利	久 (研究主任)
	浦		宏	和 (講)

自立活動	近	藤	明	子
養護教諭	西	田	志	伸
栄養教諭	寺	口	真	弓

旧同人	松	尾	裕	美
	高	楸		裕
	清	水	雅	恵
	河	野	俊	寛
	鏡		千	佳子 (講)